

10月26日、本学のホームカミングデイ2019の行事の一環として、「学士農業のススメ」をテーマに第18回農学部公開シンポジウム（「地域活性化システム論第2回講義」）を開催しました。

まず農林水産省経営局就農・女性課から佐藤方行先生（後継者担当）をお迎えして、大学で学んだことを生かした日本における新規就農者数の現況と支援策について解説頂きました。その後、農学部卒業後、数年間企業などに就職して社会経験を積んだ後に就農し、現在も活躍している卒業生3人を講師として招きました。徳島県でイチゴ園を営む蔵本さんは栽培した果物のブランド化の過程とどのように公共の支援制度を活かして経営を安定させてきたかについて紹介され、広島県でミカンを栽培する稲角さんは親から譲り受けたミカン園の規模を拡大させて収益を増やす過程での栽培と販売に関する工夫について、自らの経験談を交えて面白く紹介頂き、儲かる農業は工夫次第であると言われました。最後に岡山でフルーツ園を経営する高原さんは、従来の農産物の流通経路の枠を飛び越えて、新しい流通と経営理念・および新規就農者の育成支援についてお話されました。講演のあとは、フロアと講演者の間でパネルディスカッションを行い、参加者からは「新規就農にあたって公的な補助制度をどのように活用すれば良いのか」とか、「農産物のブランド化と流通をどのように考えれば良いのか」などといった質問があり、これからの農業のあり方について白熱した議論が繰り広げられました。出席者は76名でした。

本シンポジウムの開催にあたっては、岡山県、岡山県農業協同組合中央会、中国四国農政局、NPO法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会に後援いただきました。

